

平成 20 年度事業報告

財団法人横浜市体育協会は、平成 20 年 12 月 1 日に公益法人制度関連法が施行され自動的に特例民法法人となりました。これにより、平成 25 年 11 月末までの移行期間内に移行申請を行うことになりました。そのため、体協内に「公益財団法人」の認定に向けたプロジェクトを立ち上げ検討を始めました。

平成 20 年度事業は、横浜市との「横浜市スポーツ振興基本計画」に基づき策定した「中期経営計画」(平成 19 年 11 月)の 5 つの目標を体育協会の事業の柱と位置づけ、競技スポーツの普及振興とともに「生涯スポーツ社会」の実現に向けて、これまで以上に多様な市民ニーズに応えた事業を展開しました。また、施設の管理運営面では、安全・安心・快適な施設運営を心がけ、着実に各事業を進めました。

第一は、競技スポーツの推進事業として、当協会が平成 21 年に体育協会創立 80 周年を迎えるにあたり、「加盟団体」との協働や「開港 150 周年記念事業」との相乗効果を図りながら実施していきます。また、スポーツの普及振興を図るため、横浜マラソンをはじめとした各種スポーツ大会の開催、各種大会への選手派遣を行いました。そして、横浜開港 150 周年記念事業である「H.I.S.2009 年世界卓球選手権横浜大会」及び「2009 横浜国際トライアスロン大会等」の開催に向け横浜市や関係機関と調整を図り、広報 P R 活動を実施しました。

第二は、スポーツ支援事業として、地域に密着したスポーツ団体の区体育協会との連携強化を図り、地域でのスポーツ振興を支援しました。特に、誰もが気軽にスポーツができる環境づくりを目指した総合型地域スポーツクラブの設立・育成を支援し、平成 20 年度末現在で 9 区 14 クラブが活動を始めています。また、市民に身近なスポーツ情報を発信・提供するため、自宅や職場などで簡単かつ適切に運動が実践できる「ハマスポエクササイズ」等を展開し、一層充実した情報提供も図りました。

第三は、健康体力づくり事業として、高齢者が地域において身近な場所で運動をする機会を増やすため介護予防事業等を展開しました。また、小学校の中休み時間を活用した「いきいきキッズモデル事業」を小学校 46 校で実施しました。

スポーツ医科学センターでは、平成 20 年度からスタートした特定健康診査の受診機関となり、受診者の受入れを行ないました。

第四は、スポーツ人材の養成・育成・活用事業として、各種スポーツ人材の養成講座や指導者を対象とした研修会・シンポジウムを開催しました。

そして第五は、スポーツ施設の運営の充実として、スポーツセンター等の施設運営において 65 歳以上の方を対象とした横浜市健康福祉局の「優待施設利用促進事業」に参画し、トレーニング室の利用料の半額料金の設定やスポーツ用品の貸出し、レンタルロッカーの増設等を図りました。横浜文化体育館では、各種大会を開催するとともにスポーツとカルチャー教室の実施。日産スタジアムでは、ISO14001 の取得やフリーマーケットでのカーボンオフセットの実施など環境に配慮した「エコスタジアム」への取組を推進しました。

以上の事業を実施するにあたっては、加盟団体をはじめ、スポーツ関連団体や市民との協働を図りながら進めました。

事業の状況

1 競技スポーツの推進事業

競技スポーツの普及振興を図るため、横浜マラソン大会ほか、各種大会の開催や、協会主催の大会以外にも選手・団体を派遣しました。

また、大規模スポーツイベントの開催や誘致といった活動も実施しました。

(1) 協会創立 80 周年記念事業

協会創立 80 周年（平成 21 年）に向けて、各専門委員長を委員とする特別委員会により、加盟団体実施記念事業、記念式典、記念誌に関して検討を重ねてきました。

また、80 周年を機に、市民への PR をより積極的に行うために、記念物品の製作や、各種広報媒体への掲載を検討しました。

加盟団体実施記念事業

実施団体数：12 団体 助成金額：200 万円（総額）

実施期間：平成 21 年 8 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日

記念式典

開催日：平成 21 年 10 月 30 日（金）

開催場所：ロイヤルホールヨコハマ

招待者人数：500 名（予定）

記念誌（記念式典において配布予定）

作成部数：1,000 部 頁数：112 頁

(2) 各種スポーツ競技大会の開催

第 5 回都市間交流スポーツ大会

開催日：平成 20 年 7 月 5 日（土）～7 月 20 日（日）

開催地：京都市

実施競技：軟式野球ほか 11 競技

参加人数：235 人

第 28 回横浜マラソン大会

開催日：平成 20 年 11 月 9 日（日）

コース：山下公園スタート・山下ふ頭フィニッシュ

参加者：7,928 人

市民体育大会・市民マスターズスポーツ大会

市民体育大会

開催日：平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

競技名：弓道ほか 30 競技

参加人数：32,378 人

市民マスターズスポーツ大会

開催日：平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

競技名：体操ほか 20 競技

参加人数：5,709 人



第 28 回横浜マラソン大会

YOKOHAMAビーチフェスタ 2008

ビーチサッカー

開催日：平成 20 年 8 月 2 日（土）～8 月 3 日（日）

開催会場：金沢区海の公園

参加人数：358 人



ビーチサッカー

ビーチバレー

開催日：平成 20 年 8 月 8 日（金）～8 月 10 日（日）

開催会場：金沢区海の公園

参加人数：2,140 人



ビーチバレー

ビーチハンドボール

開催日：平成 20 年 8 月 8 日（金）～8 月 10 日（日）

開催会場：金沢区海の公園

参加人数：540 人



ビーチハンド

各区交流スポーツ大会

開催日：平成 20 年 8 月 2 日～平成 21 年 3 月 1 日

事業名：各区対抗卓球交流会大会 ほか 7 大会

参加人数：1,765 人

(3) 各種大会への選手派遣・参加

神奈川県総合体育大会

開催日：平成 20 年 8 月 3 日～平成 21 年 3 月 1 日

競技名：水泳ほか 13 競技

会 場：県立体育センターほか

派遣人数：216 人



第 63 回かながわ駅伝

第 63 回市町村対抗「かながわ駅伝」競争大会

開催日：平成 21 年 2 月 8 日（日）

対 象：横浜市選抜チーム

コース：秦野市立中央運動公園～厚木市合同庁舎～相模湖公園：7 区間 51.5 km

派遣人数：選手・役員 20 人

第 21 回全国健康福祉祭（ねんりんピック）かごしま大会参加選手選考

開催日：平成 20 年 10 月 25 日（土）～10 月 28 日（火）

競技名：卓球ほか 5 種目

参加人数：55 人

開催地：鹿児島県



世界卓球（日本代表選手団）

(4) 国際大会の開催支援（横浜開港 150 周年記念事業）

「H.I.S.2009 年世界卓球選手権横浜大会」及び「2009 横浜国際トライアスロン大会等」の開催に向け、横浜市と一体となって取り組みました。

H.I.S.2009 年世界卓球選手権横浜大会

大会組織委員会事務局に職員を配置して、各種機関との調整業務等を行いました。

また、PRイベントの開催や「ハマスポどっとコム」における「キャプテンわん・世界卓球挑戦編」の連載等により大会開催の周知を図りました。

<大会概要>

開催期間：平成21年4月28日（火）～5月5日（火）

会場：横浜アリーナ

競技種目：男子シングル、女子シングル、男子ダブルス、女子ダブルス、
混合ダブルス

2009 横浜国際トライアスロン大会等

実行委員会事務局に職員を配置し、市民にとって魅力あるイベントとするため、実施計画を作成するとともに、コースの安全対策などについて横浜市関係局や関係機関と調整を図りました。また、この大会の開催周知と普及啓発活動を行うため、1年前イベントとして主会場となる山下公園前海域でトライアスリートによる試泳や「広報親善大使（リサ・ステッグマイヤー）」によるPR活動などを行いました。

<大会概要>

- ・2009 横浜国際トライアスロン大会等

開催期間：平成21年8月22日（土）・23日（日）の2日間

コース：山下公園・関内地区周辺

- ・世界キッズトライアスロン大会

開催日：平成21年8月23日（日）

コース：山下公園・山下ふ頭

- ・世界こどもスポーツサミット in 横浜

開催日：平成21年8月21日（金）

会場：パシフィコ横浜



トライアスロン大会

2 スポーツ支援事業

スポーツの日常化を図るため、市民が自主的・自発的にライフステージに応じたスポーツライフを楽しめるような仕組みづくりをサポートしています。

（1）地域スポーツ支援事業の実施

区体育協会との連携の強化

地域に密着したスポーツ団体である区体育協会との連携強化を図り、地域でのスポーツ振興を支援しました。また、「横浜市いきいきスポーツプラン」に基づき、広く一般区民を対象とした公益的事業の充実を目指し、自ら事務局体制の強化に取り組む13区体育協会に対して事務局運営支援を行いました。

<平成20年度事務局運営支援実施区>

鶴見、西、南、港南、保土ヶ谷、旭、港北、緑、青葉、都筑、戸塚、栄、瀬谷
総合型地域スポーツクラブの支援

身近な場所で世代を問わず、誰もが気軽にスポーツができる環境づくりを目指し総合型地域スポーツクラブの設立・育成の支援を実施しました。新規にクラブ設立を目指す団体への準備経費補助やクラブ設立初期の経費の補助をはじめ、設立後クラブが安定的に活動していくための支援を行いました。

また、市内クラブの活動連携を図ることを目的に設立された「横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」と連携し「横浜開港祭」等の市域イベントにおいてクラブ活動活性化に向けた啓発活動を展開しました。



総合型地域スポーツクラブ一覧（平成 20 年度末現在 9 区 14 クラブ）

区	クラブ名
神奈川区	NPO 横浜かもめ anima クラブ、はざわクラブ、NPO かながわクラブ、まる倶楽部
中区	NPO F C ゴール、NPO 横浜スポーツ アンド カルチャークラブ
南区	弘明寺クラブ
旭区	若葉台スポーツ・文化クラブ
金沢区	金沢スポーツクラブ、NPO 横濱ラグビーアカデミー
緑区	やましたスポーツ・文化クラブ
都筑区	都筑スポーツランナー竹の子会
戸塚区	クローバースポーツクラブ
栄区	さかえスポーツくらぶ

（ 2 ）スポーツイベントの実施

スポーツの普及振興のため、各種スポーツイベントを開催しました。

ヨコハマ・スポーツ・ワールド 2008 の開催（こどもの日）

- ・ F A N C L フィットネスヨコハマ 2008

パシフィコ横浜・国立大ホールにおいて開催し、出演団体 55 団体 1,871 人、観客 3,807 人の計 5,678 人の参加がありました。

- ・ヨコハマ・ワールド・ウォーク 2008

みなとみらい・山下地区を気軽に歩いていただくウォーキングイベントを開催し、天気にも恵まれ 4,759 名の参加がありました。



フィットネスヨコハマ



ヨコハマ・ワールド・ウォーク

横浜元気！！スポーツ・レクリエーションフェスティバルの開催（体育の日ほか）各区スポーツセンター・野外活動施設、日産スタジアム、横浜文化体育館等を会場として、平成 20 年 10 月 13 日（体育の日）を中心に開催し、30 会場にて、96,297 人（市体協 28 会場、86,176 人）の参加がありました。

エンジョイスports事業（市民スポーツ教室の開催）

市民にいろいろな種目の競技スポーツに親んでもらうため、加盟競技団体の協力により児童・生徒の陸上競技教室など 14 の市民スポーツ教室を開催し、合計 2,140 人の参加がありました。

(3) さわやかスポーツの実施

子どもから高齢者まで、誰でも気軽に行えるさわやかスポーツ（インディアカ・グラウンドゴルフ等）の普及事業を全市的に展開し、市民のスポーツ実施率向上を目指すとともに、スポーツ実施に係るノーマライゼーションを推進しました。



グラウンドゴルフ

さわやかスポーツ普及活動の実績（全市合計）

事業名	開催回数（回）	参加人数（延べ・人）
地区活動	4,649	129,912
各区大会	28	3,291
各区フェスティバル	73	13,603
講習会	37	822
普及委員会	136	1,866
その他	569	54,549
合計	5,492	204,043

(4) 教育施設協力町村児童受入れ事業の実施

少年自然の家等が設置されている、群馬県昭和村（赤城林間学園）、静岡県南伊豆町（南伊豆臨海学園）、山梨県道志村（道志青少年野外活動センター）の各町村の児童に横浜市海事広報艇「はまどり」乗船、日産横浜工場や川井浄水場の見学など、横浜の様子や歴史を学んでもらうことで、各町村との交流を深める事業を行いました。

昭和村児童受入れ事業

平成 20 年 9 月 16 日～17 日 児童・引率 105 人

道志村児童受入れ事業

平成 20 年 10 月 2 日～3 日 児童・引率 21 人

南伊豆町児童受入れ事業

平成 20 年 10 月 30 日～31 日 児童・引率 79 人



川井浄水場

3 健康・体力づくり事業

スポーツの普及・振興を図り、市民の豊かな生活を目指すため各事業を実施しました。

(1) 高齢者の健康づくり支援

定期的な運動を楽しく、効果的に実施することで運動機能の維持・向上を目指した介護予防事業の実施や地域において高齢者がいきいきとした生活を送るために、身近な場所で運動をする機会を増やすための仕組みづくりを支援しました。

はまちゃん体操普及事業及びテキスト・ビデオ・DVDの教材販売

地域ケアプラザ等での介護予防事業（運動）の実施

高齢者健康づくり指導 401 教室 1,520 回（全市合計）

介護予防リーダー等人材育成研修の実施

横浜市はつらつシニアプログラム従事者研修の実施（5 回）



はまちゃん体操

(2) 子どもの体力向上支援

小学校の中休み時間における児童の教室外での運動を支援する事業等、子どもの体力向上支援の事業を実施しました。

いきいきキッズモデル事業

小学校中休み時間等を活用して、気軽に外遊びができるプログラムの紹介などにより、遊びを通じた基礎体力作りの機会を提供し子どもの体力向上を目指しました。

実施校：市立小 46校

横浜市ジュニア・部活動サポート事業

・スポーツ医科学研修(会場：スポーツ医科学センター研修室)

開催日：平成20年6月26日～12月7日 全10回

対象者：横浜市立中学校運動部顧問教諭、競技団体指導者 ほか

参加人数：132人

講師：スポーツ医科学センター医師・管理栄養士・理学療法士
スポーツ科学員・指導員

・ジュニアスポーツクリニック(会場：スポーツ医科学センター体力測定室ほか)

開催日：平成20年4月1日～平成21年3月31日 全9回

対象者：中体連の陸上競技、サッカー、バスケットボール部活動生徒 ほか

参加人数：199人

指導等：スポーツ医科学センタースポーツ科学員・理学療法士・指導員



中休み事業

(3) ぜんそく児童の健康づくり事業

ぜんそくの児童を対象としたサマースクール事業及びぜんそく児水泳教室を横浜市から受託し、医師会、小学校等の協力を得て、児童の健康づくり、体力づくりを実施しました。

サマースクール

開催日：平成20年7月29日(火)～8月1日(金) 3泊4日

会場：神奈川県立三浦ふれあいの村

参加人数：100人

ぜんそく児水泳教室

開催日：平成20年9月26日(金)～11月21日(金) 全9回

会場：スポーツ医科学センター 25m室内温水プール

参加者：23人

(4) 特定健康診査事業

スポーツ医科学センターにおいて、平成20年度からスタートした特定健康診査に取り組みました

4 ジュニアスポーツの推進

市内のスポーツ少年団を対象に、研修・交流事業、市民向け事業、県スポーツ少年団主催のスポーツ交流大会等への派遣事業等を行いました。

(1) 横浜ジュニアスポーツクラブアソシエーション(横浜市スポーツ少年団)

登録数

競技名：サッカーほか 10 競技

団 数：34 団数

指導者数：153 人

団員数： 720 人

事業

リーダー会：年 3 回

スポーツ少年団各種顕彰事業

交流活動事業

- ・横浜元気!!スポーツ・レクリエーションフェスティバル

体力測定コーナーの参画

開催日：平成 20 年 10 月 12 日(日)

会 場：日産スタジアム

参加人数：313 人

- ・第 12 回ジュニアスポーツフェスティバル

開催日：平成 21 年 3 月 7 日(土)

会 場：横浜文化体育館

参加人数：560 人

- ・各種交流事業等への派遣

開催日：平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日

参加人数：350 人



スポーツ少年団



ジュニアスポーツフェスティバル

(2) ジュニア競技力向上事業の実施

ジュニアスポーツ選手の養成のため強化練習やスポーツ医科学センターでスポーツ医科学に基づくスポーツプログラムサービスを実施しました。

ジュニア S P S 事業(スポーツ医科学センター：スポーツ版人間ドック)

開催日：平成20年4月1日～平成21年3月31日

競技名：陸上競技ほか 3 競技

延べ人数：43人

指導者人数：12人

合同強化練習

開催日：平成20年4月1日～平成21年3月31日

競技名：サッカーほか 15 競技

参加人数：981 人

5 スポーツ人材の養成・育成・活用事業

地域や各種目で活動できるスポーツ指導者を養成するとともに、指導者の活動促進を図りました。

(1) スポーツ指導者養成事業の実施

市民健康・体力づくり指導者養成講座	35人
地域クラブ・アシスタント養成講座	14人
野外活動指導者養成講座	8人
レクリエーション活動支援者養成講習会	17人
スポーツリーダー講習会	85人
地域スポーツ研修	75人
競技指導者養成講習会(コーチングセミナー)	78人
指導者技術向上補助事業	97人
高齢者スポーツ指導者養成事業	22人



養成講座

(2) 人材養成・育成・活用・情報

地域における幅広いスポーツ活動を支えるため、区単位で顔の見える指導者をコーディネートする人材活用システムを運用するとともに、システムを十分に機能発揮させるための研修や報告会等を実施しスポーツ人材の充実を図りました。



横浜市スポーツ人材活用システム 活用件数一覧 研修風景

活動登録者数(人)	活用件数(延べ・件)	指導対象者数(延べ・人)
271	1329	34,299

(3) スポーツ指導者の活動促進

スポーツ指導者を集めた研修会・シンポジウムを行いました。

カラダに 効く ストレッチング

平成20年9月20日(土)14時~16時
横浜市スポーツ医科学センター 大研修室
講師：スポーツ医科学センター理学療法士
参加者 98名



研修会

ヨコハマ・スポーツ・ミーティング

平成21年2月14日(土)13時30分~16時30分
横浜市立横浜商業高等学校 講堂

“あすのハマのスポーツ処方せん”

(パネリストと来場者のトークセッション)

パネリスト：萩原次晴氏(スポーツキャスター)
萩原智子氏(スポーツコメンテーター)
吉野真治氏(テレビ朝日アナウンサー)

参加者 85名



シンポジウム

6 スポーツ振興基金の運用

(1) よこはまスポーツ振興基金の運用

かながわ・ゆめ国体横浜市実行委員会からの寄付金を基に設置した「よこはまスポーツ振興基金」を、各種スポーツ・レクリエーション団体の事業に助成し、幅広い市民スポーツの振興を図りました。

・申請件数：32件　・交付決定件数：25件　・助成額：8,909,000円

(2) ワールドカップ決勝戦開催記念基金の運用

横浜市からの補助金を基に、「2002 F I F Aワールドカップ」の決勝戦開催を記念した基金を、横浜市、社団法人横浜サッカー協会等とともに構成する運営委員会により運用しました。

・交付件数 1件　・助成額 8,466,000円

7 加盟団体への助成

加盟団体に対し運営費・事業費の助成を行いました。

1種目：競技団体・地域団体	50,000円助成
学校体育団体	
横浜市立小学校体育研究会	100,000円助成
横浜市立中学校体育連盟	200,000円助成
横浜地区高等学校体育連盟	50,000円助成
助成団体数	70団体
助成総額	3,700,000円

8 横浜熱闘倶楽部

市民とともに地元プロスポーツチーム（横浜ベイスターズ、横浜F・マリノス、横浜FC）の支援を行う事務局として、市民の連帯感の醸成と市民スポーツの振興を行う事業を行いました。

主な事業

・公式戦への市民招待・区民招待	16,646人
・少年野球教室の開催	4,360人
・ふれあいサッカープロジェクト等の開催	32,920人
・各種広報PR事業等	



9 スポーツに関する調査研究

(1) 市民意識調査

横浜市に居住する満20歳以上の男女（外国人登録者を含む）6,000人を対象に、「市民スポーツ意識調査」を2月に実施し、集計のうえ報告書としてまとめ、第21期第3回横浜市スポーツ振興審議会において報告されました。

住民基本台帳及び外国人登録原票から各区人口比率により無作為抽出

郵送による質問紙法

平成20年1月14日発送、2月5日締切

発送数：6,000件　有効回答数：2,553件　回収率：42.6%

質問内容：過去1年間のスポーツ・運動実施種目、頻度、実施又は非実施理由、クラブ等に関する考え方、情報入手方法、公共スポーツ施設に関する要望、地域のスポーツ振興に対する考え方 など

(2) スポーツ医科学研究

スポーツ医科学センターの医師・理学療法士・スポーツ科学員などが、スポーツ医学に関する研究成果を論文などにして、学会等で報告・発表しました。

原著論文・研究報告(8件) 総説・解説(3件) 学会報告(8件)
講演・シンポジウム(9件)

10 スポーツ施設管理・運営事業

横浜市の財産であるスポーツ施設を効率的・効果的かつ、市民が安全に安心して快適に利用できる運営・管理を行いました。

(1) 横浜市スポーツセンター

スポーツセンター17施設において、区民大会やスポーツ団体の大会として利用促進を図るとともに、個人のトレーニング等のスポーツ施設として区民が身近なところで気軽にスポーツを楽しみ、健康の保持増進に努めることのできるよう、スポーツ・レクリエーション活動の普及振興を図る事業を行いました。



トレーニング室

11月から65歳以上の方を対象とした横浜市健康福祉局の「優待施設利用促進事業」に協力し、毎月5日の利用に限りトレーニング室利用料金を半額にしました。

また、10施設が民間評価機関による第三者評価を受審し、すべての施設において良好に管理運営されていると評価されました。

このほか、地域性を考慮した特色あるスポーツ教室の開催や施設の有効活用を図るため、引き続き早朝・夜間での開館時間の延長を行い、区民のスポーツ活動の機会を拡大しました。

年間利用実績(事業所別利用状況は P38)

種別	団体数・人数
団体利用	120,009 団体 3,320,922 人
個人利用	1,055,633 人
合計	4,376,555 人



高齢者体操教室



幼児体操教室

スポーツ教室の実施

幼児体操教室、親子体操教室、卓球教室、バドミントン教室、ヨガ教室、太極拳教室、エアロビクス教室等年間9,151教室(昨年度より1,414教室増)を開催しました。延べ参加者数は826,281人(昨年度より65,537人増)の参加がありました。また、新たに横浜FC定期サッカー教室を3スポーツセンターで開催しました。

駐車場事業の実施

スポーツセンター13施設及び平沼記念体育館の有料駐車場の管理運営を行いました。

自主事業の実施

施設の有効活用を図るため、早朝、夜間での開館時間の延長に向けて近隣地域住民の方々と区民のスポーツ活動の機会拡大に向けて話し合いを行いました。4月から栄スポーツセンターで月曜日の早朝営業(7時30分～)を開始しました。また、自動販売機の増設やビブスなどのスポーツ用品の貸出し、好評を得ているレンタルロッカーの増設を行い利用者サービスの向上に努めました。

(2) 横浜市平沼記念体育館

常設の観覧席(264席)があり、小規模の各種スポーツ大会の開催に適した体育館の管理運営を行いました。また、11月からビブスやシューズ、ボールなどのスポーツ用品の貸出しを行い、利用者サービスの向上に努めました。

年間利用実績(月別利用状況は P39)

種 別	団体数・人数
団体利用	1,916 団体 142,774 人



平沼記念体育館

(3) 横浜市少年自然の家

赤城林間学園(群馬県昭和村)及び南伊豆臨海学園(静岡県南伊豆町)において、海や山などの恵まれた自然環境を生かしたカッター訓練や自然観察をはじめ、創作活動、野外料理、農業体験など多様な野外活動プログラムを提供し、青少年の健全育成はもとより、幅広い市民層へ野外活動の普及振興を図りました。また、海浜活動やスキー、ハイキングを体験する青少年キャンプやファミリーキャンプ等の野外活動教室の開催、特別料理の提供などの自主事業を行いました。

年間利用実績(月別利用状況は P40)

施設名	団体数	実人数	延人数
赤 城	389 団体	14,495 人	40,351 人
南伊豆	225 団体	10,605 人	31,561 人
合 計	614 団体	25,100 人	71,912 人



カッター訓練

野外活動教室の実施

施設名	教室数	実人数	延人数
赤 城	5 教室	225 人	744 人
南伊豆	8 教室	250 人	779 人
合 計	13 教室	475 人	1,523 人

(4) 横浜市青少年野外活動センター

市内の三ツ沢公園（神奈川区）、くろがね（青葉区）及びこども自然公園（旭区）の身近なセンターと、市外の道志村（山梨県）のセンターにおいて、野外料理や野外ゲーム、テント生活などの野外活動プログラムを提供し、青少年の健全育成はもとより、幅広い市民層へ野外活動の普及振興を図りました。

また、幼児から大人までの幅広い市民層に対応した青少年キャンプやファミリーキャンプ、スポーツ活動等の野外活動教室の開催、炊事用食材販売などの自主事業を行いました。

年間利用実績（月別利用状況は別紙 P40）

施設名	団体数	実人数	延人数
三ツ沢	759 団体	18,367 人	23,797 人
くろがね	1,096 団体	16,734 人	19,292 人
こども自然	914 団体	21,034 人	29,064 人
道 志	657 団体	6,656 人	10,260 人
合 計	3,426 団体	62,791 人	82,413 人



流しそうめん

野外活動教室の実施

施設名	教室数	実人数	延人数
三ツ沢	15 教室	1,450 人	2,388 人
くろがね	14 教室	836 人	3,177 人
こども自然	18 教室	956 人	2,364 人
道 志	3 教室	253 人	778 人
合 計	50 教室	3,451 人	8,707 人



沢下りハイキング

(5) 横浜文化体育館

指定管理事業

研修会や各種集会・イベント等、お客様が安心して快適にご利用されるよう保守点検、イベントの事前打合せ等きめ細かい運営管理を行いました。

平成 20 年度は、第 23 回皇后杯全日本女子柔道選手権大会、フォルクスワーゲンオープン荻村杯（国際

卓球大会）、厚生労働大臣杯第 58 回全日本実業柔道団体対抗大会、国立ポリショイサーカスや JOC 全日本ジュニア体操選手権大会、第 31 回消費者と商店街を結ぶ集い「鳥羽一郎&キム・ヨンジャ」など国内・国際レベルのスポーツ大会、コンサートやサーカスといったスポーツ・文化・レクリエーション等の多様なイベントが開催されました。

自主事業



フォルクスワーゲンオープン荻村杯



JOC 全日本ジュニア体操選手権大会

夏休みを利用して、横浜・東京及び横浜市少年自然の家・赤城林間学園（群馬県・昭和村）がある群馬県周辺の子供たちと、元オリンピック代表選手の指導のもと、ハマフープバスケットボールのサマーキャンプを開催し、技術の向上と横浜市と昭和村の連携強化を行いました。また、多くの市民がスポーツに親しむこのほかにも、施設の立地条件を生かし、夜間の時間帯の有効活用を図るため、フットサル、バスケットボール等の市民利用促進を行いました。



ちびっこバレエ教室



バスケットボール・サマーキャンプ

年間利用実績（月別利用状況は P41）

種 別	人 数
スポーツ行事	209,056 人
文化行事	49,205 人
興行	88,810 人
平沼記念レストハウス	61,396 人
合 計	408,467 人

主な大会・行事等

・第 23 回皇后杯全日本女子柔道選手権大会（4 月）	1,600 人
・JOC ジュニアオリンピックカップ（レスリング）（4 月）	8,000 人
・フォルクスワーゲンオープン荻村杯（5 月）	7,670 人
・メリーコンサート（5 月）	3,600 人
・第 58 回全日本実業柔道団体対抗大会（6 月）	4,550 人
・国立ポリシヨイサーカス（7・8 月）	71,850 人
・2008 全日本ジュニア体操競技選手権大会（8 月）	8,212 人
・第 33 回日本ハンドボールリーグ（9 月）	1,500 人
・開港 150 周年記念・大相撲横浜場所 2008（10 月）	3,050 人
・第 31 回神奈川県幼稚園鼓笛フェスティバル（10 月）	4,520 人
・体操フェスティバルヨコハマ 2008（11 月）	5,550 人
・第 60 回全日本バスケットボール選手権記念大会（12 月）	3,150 人
・W j b 1 バスケットボール女子日本リーグ（2 月）	800 人
・第 32 回消費者と商店街を結び集い（2 月）	7,040 人

（6）新横浜公園/日産スタジアム等

指定管理者として横浜市体育協会・横浜マリノス・管理JV（株式会社ハリマビシステムほか4社共同企業体）3者の共同事業体として、日産スタジアムを含む公園（42.8ha）の管理運営を行いました。

また、日産スタジアムは、平成20年に開設10周年を迎えその記念事業を実施したほかISO14001の取得推進、フリーマーケットでのカーボンオフセット実施、スタジアム内でのリユースカップの使用推進など、環境に配慮した「エコスタジアム」としての取組を推進しました。

指定管理事業

ア 日産スタジアム・日産フィールド小机

国内最大の7万2千人が収容できるスタジアムの管理運営を行いました。20年度は、国際試合としてFIFAクラブワールドカップジャパン2008（2日/4試合）、2010FIFAワールドカップ南アフリカ大会アジア予選（2日/2試合）をはじめ、Jリーグ18試合（カップ戦、プレシーズンマッチを含む）、第39回ジュニアオリンピック陸上競技大会、コンサート等が開催されました。

また、日産フィールド小机では、リレー・フォー・ライフ・ジャパン2008新横浜（がん患者支援チャリティイベント）や各種市民大会が開催されたほか、日産スタジアムの補助競技場として、国際試合前の代表チーム等の練習場所としても利用されました。

年間利用実績（月別利用状況は P42）

日産スタジアム		人 数
大会・イベント等		1,505,897人
サッカー		716,640人
国際大会		311,778人
Jリーグ等		404,862人
アマチュア		0人
陸上競技		33,108人
イベント・その他		756,149人
NSAA(陸上教室)		11,027人
トラック個人利用		11,898人
ワールドカップスタジアムツアー		4,070人
スタジアムウエディング		647人
視察		375人
小 計		1,533,914人
フリーマーケット		397,500人
合 計		1,931,414人
日産フィールド小机	人 数	
大会・イベント等	20,103人	
トラック個人利用	6,829人	
合 計	26,932人	



FIFA クラブワールドカップジャパン



ジュニアオリンピック陸上競技大会

主な大会等

(ア) 日産スタジアム

- ・2010FIFA ワールドカップ南アフリカアジア 3 次予選
日本代表 VS オマーン代表 (6月) 46,764人
- ・TAKE ACTION!2008 『+1 FOOTBALL MATCH』 (6月) 63,143人
(元サッカー日本代表の中田英寿氏主催の地球の未来のための啓発チャリティサッカー)
- ・サザンオールスターズ「真夏の大感謝祭」30周年記念ライブ(8月) 265,000人

- ・ B ' z LIVE-GYM Pleasure 2008 - GLORY DAYS - (9 月) 140,000 人
- ・ 第 39 回ジュニアオリンピック陸上競技大会 (10 月) 33,908 人
- ・ FIFA クラブワールドカップジャパン 2008 (12 月) 136,300 人
- ・ 2010FIFA ワールドカップ南アフリカアジア最終予選
日本代表 VS オーストラリア代表 (2 月) 65,571 人

(イ) 日産フィールド小机

- ・ リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2008 新横浜 (9 月) 2,400 人
- イ 日産ウォーターパーク (温水利用型の健康運動施設)

温水を利用した 22 種類のプール施設の管理運営を行いました。

また、年間を通して市民に利用されるとともに、市民の健康増進を図る教室事業や遊具で遊ぶ「わくわくアクアランド」など新しいイベントを行いました。

そのほか、開業 10 周年記念として、幼児・小学生を対象に「絵画コンテスト」を開催し、作品の展示をしました。

年間利用実績 (月別利用状況は P42)

- ・ 開所日 : 334 日 ・ 利用人数 : 171,456 人

ウ 投てき練習場、運動広場、野球場、テニスコート (新横浜公園内有料施設)

投てき練習場、運動広場、野球場に加え、平成 20 年 4 月からテニスコートの管理運営を開始し、市民のスポーツ振興に貢献しました。

年間利用実績 (月別利用状況は P42)

施設名	人 数
投てき練習場	17,326人
野球場	9,234人
運動広場	18,963人
テニスコート	41,733人
合 計	87,256人

エ スケボー広場・インラインスケート広場 (1・2) ・バスケットボール広場

(新横浜公園内無料施設)

スケートボード、インラインスケート、BMX (競技用の自転車) が利用できるスケボー広場及びインラインスケート広場 1 の管理運営を行いました。また平成 20 年 8 月からは、新たにインラインスケート広場 2、バスケットボール広場の管理運営を行いました。

自主事業の実施

しんよこフットボールパークの管理運営を行うとともに、「10 周年記念事業」を中心に、自主事業イベントを実施しました。さらに、フリーマーケットでのカーボンオフセットの実施及び環境関連イベントの開催、ISO14001 を取得するなど環境に配慮した取り組みを推進しました。(カarbonオフセット : 日常生活や経済活動によって排出される二酸化炭素を、何か別の手段を用いて相殺しようという考え方。)

ア しんよこフットボールパークの管理運営

新横浜公園第 1 駐車場内に位置するしんよこフットボールパーク (人工芝コート) の管理運営を行いました。

- ・ 利用団体数 : 2,925 団体
- ・ 団体利用人数 : 98,036 人

イ 10 周年記念事業 (新規事業)

スタジアムヒストリー写真展（平成 20 年 4 月 12 日～9 月 12 日）

スタジアム建設から数々のイベントを 25 枚のパネルに凝縮し展示しました。
トム・バイヤーサッカークリニック（平成 20 年 4 月 27 日）

日本のユース育成サッカー指導における第一人者のトム・バイヤー氏を迎え、
小学校 4・5・6 年生を対象にサッカークリニックを開催しました。

横浜 F・マリノス応援ツアー（平成 20 年 5 月 6 日・6 月 28 日）

通常の「ワールドカップスタジアムツアー」のコースに、試合直前のマリノ
スロッカールーム見学を加え実施しました。

憧れの芝生に入れる特別ツアー

（平成 20 年 6 月 14・15 日）

市民に日産スタジアムの芝を体感していただく
と共に、芝生の管理状況や特性を理解していただく特
別ツアーを実施しました。



芝生に入れる特別ツアー

ウ 日産スタジアム アスレティクスアカデミー（NSAA）

日産スタジアムが第一種公認の陸上競技場である
利点を活かし、東海大学教授高野進氏を代表とする、
陸上競技関連の会員制教室事業である「日産スタ
ジアム アスレティクスアカデミー（NSAA）」を実施
し、会員（小学生以上）に指導を行いました。

（平成 21 年 3 月現在の会員数 152 名）



NSAA

エ その他の自主事業

サイクルパークフェスティバル

（平成 20 年 10 月 11 日）

一定時間内に公園内コース（1 周約 3 キロ）を周
回する「エンデューロ」を実施し、約 2,800 人の参
加者・来場者がありました。



エンデューロ

日産スタジアム杯少年サッカー大会（平成 21 年 2 月 22 日決勝戦実施）

市内各区の小中学生が日産スタジアムでの決勝戦を目指す少年サッカー大
会で、今年度は 11 回目。全 44 試合が行われました。

（参加者・来場者 4,629 名）

日産スタジアムサッカー教室（平成 21 年 1 月 24・25 日）

障害者の部、子どもの部（低学年・高学年）、親子の部・成人の部に分けて実
施しました。（参加者・来場者 675 名）

女性のためのランニングクリニック（平成 21 年 1 月 17 日）

浅井えり子氏を講師に女性向けクリニックを開催しました。

（参加者 70 名）

日産スタジアム駅伝大会（平成 21 年 2 月 21 日）

日産スタジアムをスタート・中継・ゴールとし、市民
ランナーのための駅伝大会を開催しました。

（参加者・来場者 3,220 名）

インターナショナル・フットボール・フェスティバル



日産スタジアム駅伝



(平成 21 年 2 月 1 日)

身近な国際交流として、インターナショナルスクールのみなさんや外国人記者クラブの方々と公募一般市民チームによるフットサル交流戦を開催しました。

(参加者・来場者 328 名)

フットサル交流戦

オ カーボンオフセットフリーマーケットの開催

(平成 20 年 8 月 30 日～平成 21 年 3 月 8 日)

8 回開催し、フリーマーケットに訪れた車輛から排出されたと考えられる CO2 排出量合計 100 トンをオフセットしました。

カ 歳時記イベントの開催

新横浜公園における季節感を創出し、スポーツ利用以外の公園利用を促進し、賑わいづくりを行いました。(こいのぼり、たなばた、秋の夜長の鑑賞会、餅つき&しめ縄作り、凧揚げの会)



キ 環境関連イベントの開催(平成 20 年 4 月～平成 21 年 3 月) こいのぼり

新横浜公園の自然を活かして、市民活動団体が企画・実施する、環境関連イベント支援事業を公募し、平成 20 年度は、平成 19 年度からの継続事業として、30～40 年前にはこの地に生息していたヘイケボタルを復活させる試みである「ヘイケボタルの里づくり」



新横浜公園生きもの探偵団

と水辺の生き物に触れ合う「新横浜公園生きもの探偵団」

さくらそう自生地復活プロジェクト

を実施しました。さらに、ヘイケボタルと同様に、さくらそうの自生地を復活させる試みである「さくらそう自生地復活プロジェクト」を新規事業として実施しました。これらの環境関連イベントの実施に伴い、地元の小・中学校との連携が実現しました。

また、地元町内会との共催による鶴見川流域の自然や文化について学ぶ「鶴見川舟運文化体験学習会」を開催したほか、横浜市環境創造局港北水再生センターと合同で「水環境とエコスタジアムを知る」をテーマとした施設見学会を実施しました。



ヘイケボタルの里づくり



舟運船体験



田植え体験



麦踏み体験

ク IS014001 の認証取得（平成 21 年 2 月 25 日）

新横浜公園の環境方針等を定めた環境マネジメントシステムを構築し、平成 20 年 8 月 1 日から運用を開始しました。平成 20 年 12 月と平成 21 年 1 月に認証機関の審査を受け、平成 21 年 2 月 25 日に IS014001 の認証を取得しました。

（ 7 ）横浜市スポーツ医科学センター

市民の健康づくりの推進・スポーツの振興・競技選手の競技力の向上を目的に、クリニック（内科・整形外科・リハビリテーション科）にアリーナ、25m プール、トレーニングルームなどを併設した施設の運営を行いました。

また、スポーツ医科学に関する情報提供、学会等での研究発表、各区福祉保健センター等での出張講演などの事業も実施しました。



クリニック

スポーツプログラムサービス（SPS）

医学的検査・運動負荷試験・体力測定の実施結果により、生活・栄養・運動について、医師・管理栄養士・スポーツ科学員などの専門スタッフがアドバイスを行うスポーツ版人間ドック（スポーツプログラムサービス）を実施しました。

クリニック

（内科・整形外科・リハビリテーション科）

一般的な内科・整形外科の診察からトップアスリートに対する診察まで、スポーツドクターなどの資格を持つ医師が診察を行い、疾病の予防・改善や症状の緩和・消失に運動療法を積極的に取り入れました。

平成 20 年度からスタートした特定健康診査については、183 人実施しました。

メディカルエクササイズコース（MEC）

内科的・整形外科的疾患を抱え、積極的に運動することで改善が望める方を対象にした医学的運動療法教室としてアリーナ・プールの 2 コースを設置、医師の運動処方に基づいて、専門の資格を持つ指導員が運動指導を行いました。

教室事業

体操・水泳・トレーニングのスポーツ教室を開催しました。また、太極拳・フラダンス・社交ダンス・ヨガなどの健康教室、専門スタッフによる減量教室や測定結果から分析して姿勢・歩き方を改善するスポ医科ウォーキングなど、目的に応じた教室も開催しました。また、横浜市からの委託事業であるぜんそく児水泳教室も実施しました。

年間利用実績

（月別利用状況は別紙 P43）

種別	人数
指定管理事業	
スポーツプログラムサービス	3,055 人
一般	1,814 人
高齢者・障害者	338 人
ジュニア	505 人
その他	398 人
スポーツ外来・リハビリテーション	66,583 人
内科	7,771 人
整形外科	17,310 人
内科系運動療法	343 人
整形外科系運動療法	26,945 人
MEC(メディカルエクササイズコース)	14,214 人
施設利用	124,378 人
アリーナ	40,986 人
研修室・会議室	51,235 人
プール	16,952 人
トレーニングルーム	15,205 人
その他事業(ライブラリー等)	60,791 人
指定管理事業計	254,807 人
自主事業	
アスリート	1,677 人
スキルチェック	31 人
フォロー事業	63,006 人
その他	1,461 人
自主事業計	66,175 人
合計	320,982 人

競技力向上事業

競技選手の競技力向上をサポートするため、地元のプロや実業団のスポーツチームを中心として、メディカルチェックや各競技に則した専門的な体力測定など実施しました。また、横浜市のジュニア競技者に対するジュニアスポーツクリニックや、各競技団体のジュニア選手にジュニアSPSなどを実施しました。



運動療法（MEC プール）

スポーツ医科学の研究

医師・理学療法士・スポーツ科学員などが研究の成果を論文などにして、日本臨床スポーツ医学会や日本体育学会などで発表・報告などを行ないました。

その他

研修室・会議室、大・小アリーナの貸出や個人利用者に対するトレーニングルーム、25m プールの提供、アスリートに対する動作分析・スキルチェック・専門的な体力測定を実施するとともに、広報誌やホームページを通してスポーツ医科学に関する情報提供や学会等での研究及び研究成果の発表、各区福祉保健センター等での講演などを実施しました。

（８）屋外・屋内プール

スポーツ・レクリエーション活動を通して市民の健康増進に寄与するため、屋内プール6施設（旭、港南、栄、保土ヶ谷、都筑、金沢）、屋外プール2施設（横浜プールセンター、本牧市民プール）を運営しました。

また、屋内プールにおいては水泳教室や体操教室を開催しました。このほか、屋外プールのオフシーズンにおける施設の有効活用を図るため、CM・TV番組撮影やフリーマーケット等に場所を提供しました。

屋外プール利用実績（月別利用状況は P44）

施設名	利用人数
横浜プールセンター	115,596 人
本牧市民プール	87,508 人
合 計	203,104 人



屋内プール

屋外プールオフシーズン利用実績

種類	件数	人数
フリーマーケット	7 件	82 人
ラジコン	12 件	276 人
合 計	19 件	358 人
撮 影	3 件	5 時間

時間貸し駐車場利用実績

（横浜プールセンターのみ）

種別	台数
夏季シーズン	11,644 台
シーズンオフ	17,385 台
合 計	29,029 台

屋内プール年間利用実績（月別利用状況は P44）

施設名	年間利用人数	水泳教室	参加人数	体操教室	参加人数
旭プール	135,723 人	65 教室	7,919 人	24 教室	3,880 人
港南プール	134,810 人	86 教室	11,941 人		
栄プール	82,424 人	131 教室	18,411 人	13 教室	530 人
保土ヶ谷プール	97,442 人	164 教室	16,315 人	10 教室	1,108 人
都筑プール	154,048 人	117 教室	14,895 人		
金沢プール	201,521 人	99 教室	17,380 人	15 教室	1,718 人
合 計	805,968 人	662 教室	86,861 人	62 教室	7,236 人

駐車場年間利用台数 178,365 台

(9) 鶴見川漕艇場

水上スポーツ・レクリエーションの場として、ボート・カヌー等の利用ができる施設の管理運営を行いました。

また、市民がボート・カヌー体験ができる教室を開催しました。



鶴見川漕艇場

年間利用実績（月別利用状況は P44）

艇利用	3,995 艇
利用人数	20,408 人

教室実績

教室名	教室数	人数
ボート・カヌー教室	5 教室	47 人

(10) テニスガーデン

緑テニスガーデン（10 面）、根岸テニスガーデン（9 面）及び泉中央テニスガーデン（11 面）において、子どもから大人まで参加できるテニス教室を開催するなど、市民のスポーツの普及振興に努めました。



緑テニスガーデン

年間利用者数（月別利用状況は P44）

施設名	年間利用人数	貸しコート利用者数	教室参加人数
緑テニスガーデン	68,130 人	41,270 人	26,860 人
根岸テニスガーデン	80,797 人	21,657 人	59,140 人
泉中央テニスガーデン	48,270 人	32,270 人	16,000 人
合 計	197,197 人	95,197 人	102,000 人

(11) 横浜みなとみらいスポーツパークの運営

みなとみらい 21 地区 60 街区に財団法人日本サッカー協会公認の人工芝フィールドを備える、横浜みなとみらいスポーツパークの運営を行いました。

人工芝フィールドにおいて、サッカーを中心としたフィールド系スポーツ(サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール等)の拠点として利用促進を行いました。

利用実績(月別利用状況は P44)

種 別	人 数
総利用者数	461,612 人
フィールド利用	343,121 人
会議室利用	118,491 人



人工芝フィールド

11 スポーツ情報の収集・提供

(1) スポーツ情報事業の拡充

横浜市内及び近隣都市等のスポーツ情報を収集し、インターネットや情報誌などの媒体を通じて、市民へのスポーツ情報の提供を行いました。

また、スポーツ情報センター窓口や電話などでの情報提供も併せて行いました。

(2) スポーツ情報サイトの運営

インターネットを通じて市民・閲覧者においてスポーツや健康づくりへの関心を高めてもらうために、横浜市民にとって有益なスポーツ情報を幅広く掲載・提供する Web サイト「ハマスポどっとコム(平成 19 年 3 月 21 日に全面リニューアルオープン)」を運営しました。

検索機能

スポーツ施設やサークル、指導者等の紹介や、教室・大会等の案内・結果などの情報を提供し、市民・閲覧者が気軽にスポーツをする機会や環境を、快適かつ簡単に検索できるサービスを展開しました。



読みものコーナー

市内各所で行われるスポーツイベント等を積極的に取材して、写真や動画を使って記事を発信したほか、著名人によるコラム、横浜にまつわるスポーツ史、イメージキャラクターによるスポーツ漫画、健康コラム、食育記事などを掲載し、市民・閲覧者にスポーツの楽しさと健康維持の大切さを伝えました。

市民投稿・参加コーナー

「市民の市民による市民のためのスポーツ情報」という趣旨をコンセプトとして、市民からのスポーツ情報の投稿の受付、発信を行ったほか、SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)による閲覧者同士のスポーツコミュニケーションづくりを促進しました。

運動・健康実践コーナー

自宅や職場などで簡単かつ適切に運動できるようにするために、軽運動やストレッチを写真や動画を使って案内する「ハマスポエクササイズ」を開始したほか、スポーツ医科学センターの協力により、健康セルフチェックができるコーナーを展開しました。

情報保有件数 9,383 件 (平成 21 年 3 月 31 日現在)

・施設情報 1,374 件 ・サークル情報 680 件
 ・指導者情報 238 件 ・イベント情報 7,091 件

電話・窓口での問合せ件数 841 件 (平成 20 年度)

アクセス数実績

・ハマスポどっとコムページ全体 月平均約 48 万件(前年度比較で約 4 万件増加)
 ・トップページ 月平均約 6 万件(前年度比較で約 1 万件増加)

(3) スポーツ情報誌の発行

市民にとって有益なスポーツ情報を易しく紹介することをコンセプトとしたスポーツ情報誌「SPORTSよこはま(平成 19 年 6 月 1 日刊)」を、年 6 回、計 15 万部発行し、市内各所の PR ボックスや市役所市民情報センター、区役所広報相談窓口、公共施設、市内各駅などで無料配布しました。



主たる内容は次のとおりです。

市体協加盟団体からの協力による記事掲載や各団体主催のイベント等事業紹介(下表参照)

年間を通じて	【陸上】連載企画「読者参加企画『横浜マラソンへの道』」		
4月号	【卓球】特集「もっと知りたい卓球」	10月号	【全団体】北京五輪結果報告 特集「冬のスポーツ観戦」での各取材対応
6月号	【全団体】北京五輪選手出場調査	12月号	【卓球】「全日本卓球選手権大会」紹介 【ラグビー】「全国大学ラグビー選手権」紹介 【スポチャン】「全国幼稚園スポーツチャンバラ選手権」紹介 【バスケット】「ウィンターカップ」紹介 【陸上】生涯スポーツ優良団体受賞
8月号	【トライアスロン】特集「横浜にトライアスロンがやってくる」	2月号	【陸上】特集「最後の横浜国際女子駅伝」 【バスケット】バスケットフェスティバル開催案内 【全団体】新春横浜スポーツ人の集い

市体協関連イベントの紹介・報告

横浜熱闘倶楽部 3 チームの選手や関連イベントの紹介

独自に取材・編集した特集記事の掲載

読者参加型企画の連載(横浜マラソンへの道〔20~60 歳代 6 名参加〕の本番出場までを取材)

スポーツ医科学センターの協力による健康関連情報の掲載

その他市民にとって有意義なスポーツ関係情報の掲載

12 交流・顕彰事業

市民のスポーツ活動の啓発を図るため、交流事業及び表彰事業を実施しました。

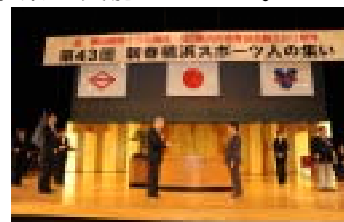
(1) 交流事業

横浜市のスポーツ関係者の交流促進のため、

「第 43 回新春横浜スポーツ人の集い」を開催しました。

開催日：平成 21 年 1 月 21 日(水)

参加者：約 1,200 人



(2) スポーツ表彰事業

北京オリンピックで活躍した、横浜出身の選手を横浜市スポーツ栄誉賞として表彰しました。4人

各種スポーツ大会において、顕著な成績をおさめた個人・団体やスポーツ振興に寄与した個人を表彰する横浜スポーツ表彰を実施しました。

・個人：178人 ・団体：11チーム

地域においてスポーツの普及振興、又はスポーツクラブの育成のために寄与している者に対して、その功績を報いるため、横浜スポーツ普及功労賞として表彰しました。30人

13 その他事業

(1) 財政の確立

各種事業の一層の充実と発展を図り、事業推進の社会的な意義・役割を果たすためには、安定した財政基盤の確立を図るため、スポーツ振興事業団の残余財産を原資に財政調整基金を設置しました。

(2) 危機管理体制の取組

市民が安心・安全に施設利用ができるよう、市民の身近なスポーツセンター等の施設利用に対して、巡回指導や地元警察消防等との連携の強化や、避難誘導計画の見直し及び定期的な訓練の実施、防犯カメラの整備・拡充を図り日常の危機管理体制を整えました。

また、日産スタジアムや横浜文化体育館等の大規模イベント開催時の危機管理体制を強化するため、管理責任者及び職員の研修の実施や災害発生時のマニュアルを整備しました。

(3) 個人情報の保護に関する取組

積極的な個人情報保護の取り組みを進め、平成20年8月には、JISQ15001の規格に適合している事業者が認定される、プライバシーマークを取得しました。

規定類の整備とそれに基づいた個人情報の取り扱い、実施状況の点検や内部監査、評価と見直しなど、個人情報保護の適正かつ継続的な実施に努めています。



(4) 駐車場の運営

横浜アリーナに近接する新横浜駐車場他、7箇所の駐車場の運営を行いました。

年間利用台数

種別	台数
月極駐車場	3,175台
時間貸駐車場	59,618台